

メダカは、いつ、どのくらいの卵を産むの

メダカは、夜明けに卵を産む

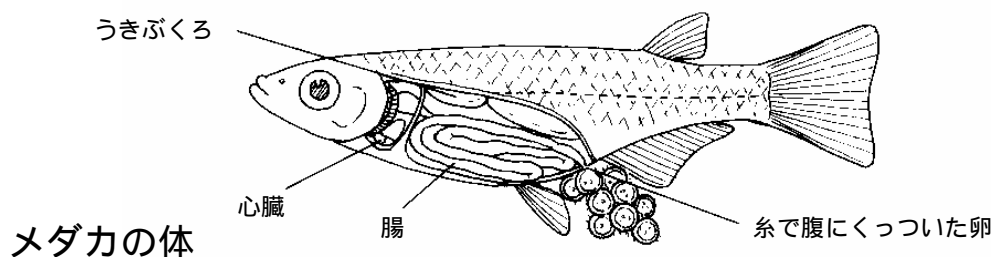
メダカは、春から秋にかけて、水温が18℃以上になると、卵を産みます。メダカが卵を産む時間は決まっています、明るくなり始める早朝です。オスがさかんにメスを追いかけて、やがて、メスは、細かい糸がついた1.3ミリメートルくらいの卵を産みます。卵は、糸でしばらくメスの腹にくっついたままですが、やがて、メスが水草などに腹をこすりつけ、水草に卵をくっつけます。

この卵や、ふ化したメダカの子魚を、親と同じ水そうに入れたままにしておくと、メダカは、えさとまちがえて、食べてしまいます。そこで、卵のついた水草を見つけたら、すぐ別の水そうに移してやりましょう。

1匹きのメダカが、およそ3000個の卵を産む

メダカは、春から秋にかけて、水温が18℃以上になれば、毎日のように、10数個～40個くらいずつ卵を産みます。1匹きのメダカが、秋までに、およそ3000個の卵を産むといわれています。卵がふ化する日数は、水温によってかなりちがいますが、15前後では20～30日くらい、21℃をこえると10日くらいで、子魚が出てきます。親と同じくらいの大きさになったら、同じ水そうに入れてもだいじょうぶです。

(監修・安部 義孝)



メダカの体

